

2019年度入学式学長式辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。ご父母の皆様もお慶びのことと存じます。心よりお祝い申し上げます。

本日平成最後の入学式では、経済学部、理工学部、文学部、法学部の4つの学部と、経済経営研究科、理工学研究科、文学研究科、法学政治学研究科の4つの大学院研究科を合計して、およそ1800名の新入生のみなさんを、満開の桜と共にお迎えできたことは、まことに喜ばしい限りです。

まず、皆さんが入学してこられた成蹊大学について簡単にご紹介します。成蹊大学の母体である成蹊学園の歴史は、今から107年前に創立者中村春二が池袋の地に開校した成蹊実務学校に始まります。さらにその源流には、中村春二が本郷の自宅に開いた「成蹊園」という私塾があります。「成蹊」という名前は、司馬遷の史記の中にある「桃李もの言わざれども下のおのずから蹊を成す」という言葉に由来するもので、「何も言わなくても徳の高い人の周りには多くの人が集まり、その下に自然に蹊ができる」ということを意味しています。中村春二は、当時の国家統制による画一的な教育に反対し「個性の尊重」の教育理念を掲げ、新しい教育を行うための学校を次々に設立していきました。大正の末に池袋から現在の吉祥寺の地に移転し、旧制の七年制高等学校を開校いたしました。成蹊大学は、この旧制高校の自由で誇り高い学風と、成蹊学園の建学の理念を受け継ぎ、1949年に新制大学として政治経済学部一学部のみで誕生しました。その後学部や大学院を増設し、現在では総合大学としての形態を整えるまでに発展を遂げてまいりました。したがって、本年度2019年度はちょうど大学創立70周年にあたる記念すべき年となります。

さて、いま入学してこられた皆さんは、これから成蹊大学でどのように過ごしていけばよいでしょうか。それを考えるために、まず、皆さんが数年後に出ていく社会とはどのようなものなのかを想像してみましょう。

これから皆さんが足を踏み入れていく社会は、一言で言うと「何が起きるかわからない」「何が起きてもおかしくない」不確実な社会だと言えます。社会は非常なスピードで変化しています。例えば、いまからおおよそ10年余り前にiPhoneが発売され、人類は初めてスマートフォンを手にしましたが、その後「スマホ」は瞬間間に世界中を席卷し、今では私たちの生活の隅々にまで入り込んでいます。iPhoneを世界中で5000万人以上の人を使うまでに要した時間は発売からわずかに3年です。5000万台以上を売上げるのにラジオが50年、テレビが20年以上を要したと言われていたことから考えると、そのスピードが桁違いであることがわかると思います。今まさにIoT、ビッグデータ、人工知能、ロボット、ナノテクノロジー、バイオサイエンスなどの先端テクノロジーが相互に融合しあいながら、社会文化の

あり方を根底から変えるほどの大きな圧力となって押し寄せてきていると感じます。人工知能やロボットは将来の日本国内の 49%の職業を奪い取るという予測さえ存在するほどです。

このような新しいテクノロジーによって激しく変化する時代をどう生きていけばよいでしょうか。AI時代を生きていくために最も必要な力は「創造的思考力」であるとよく言われます。それでは創造性とはどのようなものでしょうか。あるいはどうすれば身につくのでしょうか。新しい時代の幕開けを告げる鐘を鳴らしたと言われているアップルの創始者スティーブ・ジョブズの言葉に「創造性とはものごとを結びつけることである」というものがあります。

何かを勉強すると知識が身に付きます。何かを理解しそれを覚えているという状態です。それぞれの知識は無数の点としてみなさんの頭の中に存在します。ものを考えるということは、それらの点をつなぐこと、さまざまな知識の関係性を探ることにほかなりません。この出来事とあの出来事はどうつながっているのか、この作品とあの作品はどのような類似性があるのか、など比較をしたり結合したりすることの中に新しい閃きがひそんでいます。皆さんも、ぜひ大学時代の勉強の中で、「何かを覚えさえすればそれで終わり」というのではなく、それぞれの関係性を考えるようにしてみてください。きっと新しいアイデアが湧いてくると思います。

しかし、一人の人間の知識を結びつけても出てくるものには限界があります。異なる知識、異なる価値観をもった複数の人々が相互に混ざり合うことによって、格段に多くの知識の結合が可能になり、そこから無数のアイデアを生み出すことができます。すなわちこれからの人間は、激動するテクノロジー時代を生き抜いていくために、チームによって創造性を発揮していくようになります。言い換えると、現代はチームで仕事をしていく必要性が格段に高まっている時代であるということが出来ます。

それでは、強いチームをつくるにはどのような人材が必要でしょうか。皆さんは幼少の頃から、テレビのスーパー戦隊や超能力者チームが活躍する映画やアニメを見たことがあるかと思います。あるいはキャラクターがチームを組んで敵と戦うドラゴンクエストやファイナルファンタジーなどのロールプレイングゲームを行なったことがある人も多いと思います。そのとき強いチームとはどのようなチームだったでしょうか。さまざまな分野の能力や属性に秀でたキャラクターが集まっているチームではなかったでしょうか。つまり圧倒的な能力やスキルを持つ人を様々な分野から集めてくると、非常に強いチームが出来上がり高い成果を上げることができるわけです。

スティーブ・ジョブズは「偉業は一人では成し得ない、チームでやるものだ」と述べていますが、彼が理想のチームとしていたのは、20世紀の伝説の音楽バンド「ビートルズ」で

した。一人ひとりが輝く個性と能力を持ち、それらが融合することによって世界を魅了するヒット曲を次々と生み出し続けたチームです。

お分かりでしょうか。激動するテクノロジー時代を生き抜いていく際に、最も必要なのは、チームのメンバーに選ばれる個性です。特定の分野で圧倒的な能力を持った人、突き抜けた個性を持った人は、強いチームを創るために不可欠な存在になります。

成蹊学園は100年以上にわたって「個性の尊重」を掲げて教育を続けてきました。今まさに成蹊教育の真髄が輝きを放つ時代が到来したという印象を強く持っています。皆さん、ぜひこれからの激動の時代を生き抜いていくために、自らの個性を磨き続け、自分の得意なところを伸ばし、誰にも負けない領域を創ってほしいと思います。

皆さんの周りには、自分の個性を磨くためにチャレンジできる機会が無数にあります。カリキュラムの中にも成蹊国際コースや丸の内ビジネス研修などの選抜制の特別プログラムがあり、また課外クラブ活動や海外留学、外国人留学生との交流、ボランティア活動、インターンシップなど、皆さんが積極的にチャレンジするものは大学の内外に無数に存在しています。ぜひ、未知のものにチャレンジし、わくわくしながら個性を磨いていってください。私は皆さんが個性を磨くためのチャレンジを全力でサポートします。

皆さんが数年後に船出していく社会は決して安定した静かな海ではありません。しかし、だからこそ大学で学ぶ意義があります。私たちも、これからの成蹊大学の教育を懸命に創っていきます。変化の激しい不確実な社会に全力で立ち向かい、これからの皆さんの未来について本気で考えていきます。ぜひ皆さんも、私たちと一緒に未来を語り合いましょう。

最後に、数年後の卒業式の日、この場所で、激動の社会に立ち向かえるほどにたくましく成長したみなさんに再びお会いできることを心から楽しみにして、私からのお祝いのご挨拶といたします。

ご入学本当におめでとうございます。

2019年4月3日
成蹊大学長 北川浩